

出羽三山お年越し『肘折温泉さんげさんげ』に参加

山形森林管理署最上支署

あけましておめでとうございます。

新年を迎え、出羽三山の越年行事である『肘折温泉さんげさんげ』（大蔵村肘折地区主催）から招待され参加しました。

大蔵村にある肘折温泉は、807年の開湯以来1200年の歴史を持つ温泉郷で、室町時代(1390年)に月山登拝道として「肘折口」が開かれ、翌年に宿屋として許可をもらい開業したとされています。それ以来、肘折温泉は月山参詣者のみそぎの場「登り口」として、昔から出羽三山信仰との結びつきの中で賑わってきたと言われております。

『さんげさんげ』は「^{さんげ}懺悔」がなまったものとされ、人体の六つの器官（眼、耳、鼻、舌、身、意）から生ずる罪けがれを消滅し、無病息災、商売繁盛、五穀豊穰を祈願する催事で、肘折温泉の正月の風物詩になっ



振る舞いの納豆汁と餅

さすが村長、上手です



とにより以前どおりの誘客を取り戻せるようにしたい。」との挨拶で終了しました。

肘折の冬は、積雪が5m強ともいわれますが、温泉街は温泉熱とお湯でほとんどありません。皆さんも是非一度来てください。



行者おふれ



餅つき開始

ており毎年1月7日に行われています。修験者達がホラ貝を吹きながら温泉街を練り歩き、その姿は風格が漂いとても勇ましく感じられます。『さんげさんげ』は昭和34年を最後に一時途絶えましたが、地元有志が昭和59年に復活させ今回で31回目を迎えました。現在中心となっている方の親の世代が復活させ、息子の世代にもうまく受け継ぎ続けているとのことでした。

その後行者達の「餅つき」が始まり、温泉客等に約千食の「餅の振る舞い」があり、あっという間になくなるほどの大盛況、午後の「御祈祷」後、最後に肘折地区代表から「土砂災害で閑散としていた肘折温泉が、希望大橋が完成したこと



「さんげさんげは俺に聞け」と色々教えてくださった早坂さん